

---

# 主人公達のトーク × トーク

湊美耶子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

主人公達のトーク×トーク

### 【Nコード】

N4814T

### 【作者名】

湊美耶子

### 【あらすじ】

トリップシリーズの主人公達等が集まってトークングしています。トリップシリーズのネタバレもあるのでご注意ください！ネタバレ、他作者様の（トリップ）作品についてグダグダな感想言っちゃう場合もあります。

【1】ワカバの相手役について（前書き）

【女神様の落し人】からフミ。

【ギルド『ハレルヤ』の経理係】からワカバ。

【後宮近衛隊長の小間使い】からルミ。

以上三名が参戦しております。

未登場人物の氏名が出ますのでネタバレがイヤー！って方はご注意を。

## 【1】ワカバの相手役について

フミ「ということで主役の女子会トークショー+α、話順は連載開始順からです」

ワカバ「栄えある第一回のトークテーマは『ワカバの相手役について』……ええー!」

ルミ「……カイゼさんは相手役（彼氏）じゃないもんねー」

フミ「そういうルミさんもエリー様じゃ……まあいいけど」

ワカバ「独身を貫きます!」

ルミ「私も!」

フミ「えーつまんない! でもプロットを盗み見るとワカバの相手役は既に決まってるそうです!」

ワカバ「なぬ!?!」

ルミ「やっぱり王道の皇子様?」

フミ「ってことで登場予定の男性を下に身分順に5名だけリストアップしました」

深剣 政凛<sup>せいりん</sup> 17 第一皇子

深剣 政藍<sup>せいらん</sup> 1 2 第二皇子・双子  
深剣 政燕<sup>せいえん</sup> 1 2 第三皇子・双子  
深剣 勇政<sup>ゆうせい</sup> 2 7 冒険者（現皇帝の実末弟）  
水元 歌出那<sup>かでな</sup> 2 6 政凜の側近（水元家直系第一男子）  
（以下略） お楽しみに。

ワカバ「やつぱり皇子様いるーう！ しかも3人も！ 絶対緑川ちやんの呪いだー！」

ルミ「ワカバちゃん男化して、全員ゲットだぜb」

フミ「それいいわあー！」

ワカバ「それって私が総受ってことですか？」

ルミ「さあ？ 別に攻めていいよ？」

フミ「じゃあ、気を取り直して。帝弟の勇政さんと王道で男装して冒険に出ようか」

ワカバ「ええー？ 何のお役にも立てそうにないです……」

ルミ「ワカバは愛のため冒険に出るのだった……経理係・完。新連載『異世界冒険者ワカバ』よろしくねっ！ 的な」

フミ「ま、冒険者の話別にあるのでソレは無いので帝弟フラグ叩き折ってやんよ！」

ワカバ「部外者（？）が折ったw まあ、ギルドから見ると冒険者も色々で楽しそうですけどね。パーティーだったり、独りだけだ

ったり、ケンカしたり、メンバー内で恋愛したり……」

ルミ「読めた！」

フミ「何が？」

ワカバ「？」

ルミ「独り身のイケメン冒険者と恋愛ルートだ！」

フミ「さっき叩き折ったってば」

ワカバ「受付嬢じゃないので出逢い無いです」

ルミ「いやあそこはなにかフラグ立つのよー。もう分かつちゃったし。連載すつきり30話くらいで終わらそう、で次、私頑張る」

フミ「30話はたぶん私達出張から駄目。せめて40話でよくない？」

ワカバ「お独り様で40話完結をキボンヌ……」

ルミ「ってかその冒険者って帝弟さんか！ リストに出てた」

フミ「だから折ったって話全然聞いてないなw……どっちにしろ皇室絡むじゃん、40じゃ終わんないよ」

ワカバ「プロットによると皇位継承権放棄されてるそうです」

ル ミ「ご都合主義って奴ね、やっぱ40話完結でいいじゃん」

フ ミ「うお、プロットにさあ、第6章『経理係は不滅です!』ってサブタイついてる……」

ワカバ「ハレルヤ危機!？」

ル ミ「あらすじ音読して!」

フ ミ「ほいきた。『トリップから2年半が経過。もうすぐ20歳のワカバは正式……えええええ!!!』」

ワカバ「正式に何……処刑されるとか?……ヤンデレルートとかいきますか?」

ル ミ「ヤンデレ知らない(日本文化知識西暦2001年頃で止まってます)」

フ ミ「心が病んでる子と恋愛」

ワカバ「派生で不良と恋愛モノとか、ヤンキーデレデレですb」

ル ミ「どっちも萌える……今度エリー様の新作それにしてもらわ」

フ ミ「心のソコから応援してる」

ワカバ「私も結構応援してます」

ル ミ「話を元に戻そう。どうやら無駄に長いようだ、『経理係』」

フ ミ「私なんて2万字、トリップ3日で連載終わったモンね！」

ワカバ「でもそれが逆に好評ですが何か？」

ル ミ「私もさくつと終わらせたい」

フ ミ「まあ第2章で私ら出て来た後にワカバちゃんが……（溜め）」

ワカバ「私がつ?!」

ル ミ「何々？」

フ ミ「恋愛モードスイッチが……!」

ワカバ「ええええ!」

ル ミ「それってイシュライラさんのこと好きになるってこと?」

フ ミ「とまあ、こんな感じで締めようか」

ワカバ「うええええ!」

ル ミ「それってイシュライラさんのこと好きになるってこと? 大事なので二回言いました!」

フ ミ「まだ書いてません! プロット盗み出してくるの大変だったんだからね。イシュゝコレこっそり戻ってきてー」

ワカバ「わゝ旦那さん超便利」

ルミ「旦那っつーか忠犬に見える……（夜に豹変しそう……むしろ狼変？）」

フミ「なんか色々言われてるけど気にせず終了」

ワカバ「じ、次回はルミさんのお相手編ですっ！」

ルミ「お相手……エリー様かによ？」

## 【2】 ルミの相手役について（前書き）

【女神様の落し人】からフミ。

【ギルド『ハレルヤ』の経理係】からワカバ。

【後宮近衛隊長の小間使い】からルミ。

以上三名が参戦しております。

未登場人物の氏名が出ますのでネタバレがイヤー！って方はご注意を。

## 【2】 ルミの相手役について

フミ「ということで主役の女子会トークショー+α、話順は連載開始順からです。って早速前回は+αがなかったです、ごめんなさい」

ワカバ「第二回のトークテーマは『ルミの相手役について』……いいーい！」

ルミ「何故乗り気？」

フミ「10年もユザド国居たなら悪い虫いっぱい居たでしょうに」

ワカバ「でもエリー様がバル<sup>サ</sup>ンしてそうです。人の恋バナは嫌いじゃないです」

ルミ「あー合ってるね、してたよ。嬉々として」

フミ「やっぱり……」

ワカバ「なんというかルミさん老成してますね」

ルミ「だって精神年齢で言えば60代だし」

フ ミ「うつ、考えたくない」

ワカバ「1年1、728日はキツイなあ……」

ル ミ「まあ人間は慣れる生き物ですから」

フ ミ「ですね。ってことで相手誰だろうと。イシュにまたプロット持ってきてもらったよ」と

ワカバ「それは盗み出してくるって言うと思います」

ル ミ「エリー様でいいよ、エリー様で」

フ ミ「……プロット内、ヴァレリーさんの名前が目立つなあ……」

ワカバ「見た目は鬼畜、頭脳は普通のヴァレリーさんですか」

ル ミ「……それってエリー様のプロットじゃ……」

フ ミ「……あ、ホントだ。新作小唄の奴だ。イシュ、コレ違う。ドジっ子めっ!」

ワカバ「ルミさんはエリー様のことオスカル様って呼んだってありますけど……そんな感じのイメージでいいんですか」

ル ミ「エリー様は金髪をポニテ、巨乳なのでどっちゃっつーと男性誌のエロい女騎士系かな。服は男性と同じの着てるから肌見せてないけど」

フ ミ「いいわあ、女騎士。エリー様主人公でよくな?」

ワカバ「いいですねー……いや、何が？」

ルミ「公爵家のヴァレリー様と結婚するために侯爵家がどうかね。あの過去話でも普通に小説になりますよね」

フミ「いや、ルミさんのために男の体を求めに旅に」

ワカバ「フミさん、冒険者ネタ好きですね！」

ルミ「ああ魔法で男にしてもらったためにディリトアに行くとかいうパターンですか？」

フミ「有りでしょ？」

ワカバ「……また別作品内に出るつもりですか？」

ルミ「そのようすな」

フミ「フッフ、肉食系なもので。出番くれ！」

ワカバ「で、プロットには何が書いてあります？」

ルミ「そうそう」

フミ「プロットにはねえ……セリフが『安定期に入ったらだからあと2カ月後くらいかな』……妊娠ネタだっ！？」

ワカバ「おおっ！」

ル ミ「だ、誰っ!？」

フ ミ「秘密。次……『ああ、死刑だね。』……怖っ! このプロット怖っ!」

ワカバ「そんな軽く死刑とか言っちゃうような人いるんですか?!」

ル ミ「エリー様のお父様が新キャラ? アラム君はさておき、陛下やヴァレリー様は紳士だし」

フ ミ「えー、ルミちゃんそんなとこ居て大丈夫なの?」

ワカバ「太刀花家来ます?」

ル ミ「いや、今更新天地とか面倒だし」

フ ミ「国外逃亡したらウチにおいで。女の人なら多分イシユ殺さないからw」

ワカバ「……男は死ぬんですか?」

ル ミ「三次元の男は碌でも無いのしか居ない……」

フ ミ「ウチのイシユは可愛いわよ?」

ワカバ「確か大型犬みたいって表現でしたよね?」

ル ミ「夜、狼でしょ?」

フ ミ「何故知っている!?!」

ワカバ「?!」

ルミ「やっぱりか」

フミ「だって若いんだもん。それと研究熱心なんだもん」

ワカバ「何の研究ですか……?」

ルミ「ワカバちゃんそれは野暮ってもんじゃない……」

フミ「異世界人研究?」

ワカバ「じ、人体実験!?!」

ルミ「うわーエロいことされてそう」

フミ「フッフ、秘密。ルミちゃんとも貴族でしょ? お抱え魔術師いないの?」

ワカバ「……そういえば」

ルミ「いますよー」

フミ「先輩として言っとく。年下の魔術師はやめとけw」

ワカバ「じ、今回はフミさんのお相手、イシユライラさんを大解剖です!」

ルミ「解剖……トリップしてから魚捌けるようになった……で、

年上ならいいの？」

### 【3】 イシュライラ氏を大解剖！（前書き）

【女神様の落し人】からフミ。

【ギルド『ハレルヤ』の経理係】からワカバ。

【後宮近衛隊長の小間使い】からルミ。

以上三名が参戦しております。

未登場人物の氏名が出ますのでネタバレがイヤー！って方はご注意を。

### 【3】 イシュライラ氏を大解剖！

フ ミ「ということで主役の女子会トークショー +  $\alpha$ 、話順は連載開始順からです。って前日も +  $\alpha$  がなかったです、ごめんなさい」

ワカバ「第三回のトークテーマは『イシュライラ氏を大解剖』です」

ル ミ「…… 宮廷魔術師だっけ？」

フ ミ「17歳の天才宮廷魔術師です。青い髪と瞳が綺麗なの」

ワカバ「実家は豪商だそうです、お金持ちの息子さん」

ル ミ「苦勞とかしたこと無さそう」

フ ミ「最終的には無いね」

ワカバ「念願のお嫁さんもゲット出来ましたしね」

ル ミ「精神年齢80の癖にね」

フ ミ「精神年齢は置いといてw」

ワカバ「また1年1、728日ネタがこの位置に……」

ル ミ「まあ人間は慣れる生き物ですから……って前回と同じセリフは嫌だなあ」

フ ミ「えーと、番外編で細マッチョと表現しておりますとおり、服を着た見た目は魔術師ですが奴はただの狼さんですw」

ワカバ「狼さんってw」

ル ミ「フミさんが男だったらハゲ萌える、年下魔術師攻×異世界トリップリーマン受」

フ ミ「私も萌えるわあ！」

ワカバ「見た目はワンコ、頭脳は策士……」

ル ミ「ああ、そんな感じ」

フ ミ「ってまあBLは置いといて。イシユはですねえ……まあ実年齢は満16歳程度なので中二病も甚だしいですw 実力もあるのがム力つくけどw」

ワカバ「シリーズ中一番チートですよね」

ル ミ「チュウニビヨウとチートって何？」

フ ミ「中二病（厨二病とも書きます）は主に中学二年生（14歳）が想像するような『俺には特別な力がある』というようなイメージを常に抱いている人。チートが通常の人間よりやたら能力が高い人間に対する賞賛と僻みの意味を込めてw」

ワカバ「俺最強とか思ってたたり、世界観を壊すほど強かったりとか、便利だったりとか」

ルミ「なるほどドラ衛門か」

フミ「うん、ドラ衛門。ちょうど青いしw」

ワカバ「うわぁw」

ルミ「で、ドラ衛門さんは普段何してるの？」

フミ「お城で魔術研究、古文書の解読とかも。魔方陣の組込方で魔法の効果が変わるとか言ってたからイメージ的にIT系と考古学者が合わさった感じ」

ワカバ「カッコいいw」

ルミ「何処にツボったの？」

フミ「考古学者かな？」

ワカバ「はい、古文書解読カッコいいですw」

ルミ「渋いなぁ……」

フミ「性格設定としては甘党・皆様周知の夜はエロい・冗談が通じない・独占欲強い・頭が良い分口論じゃ勝てない・さりとて体力的にも勝てない。いやぁ絡みづらいわー」

ワカバ「……苦労されてるんですね」

ルミ「もっと大人しいのが良いよねえ」

フミ「慣れれば平気。顔は良いし」

ワカバ「（顔は良いって……出来ればもっとソフトな相手がいいなあ）」

ルミ「（この三人で一番苦労してるのフミさんの気もする）」

フミ「あれ？ 皆無言でどうしたの？」

ワカバ「魔王と結婚した感想は？」

ルミ「いや、大魔神じゃない？」

フミ「魔王って何さw 昼は可愛いよw 夜は伏せさせるし」

ワカバ「伏せ……」

ルミ「伏せ……」

フミ「ウチのイシュは可愛いわよー？」

ワカバ「前回と同じセリフで同じ場所です、ソレ」

ルミ「うんうん」

フミ「言っとくけどイシュはあげないわよ？」

ワカバ「要らないです!」

ルミ「要らないですよ!？」

フミ「なんだよう。相手役チェンジしたいのかと思ったのに」

ワカバ「いや、まだ出てきてませんので何とも」

ルミ「少なくともイシユライさんよりは大人しい人の気がする  
ので」

フミ「ウチのイシユたんだって大人しいです! 丸一日研究室から出てこなかったりするもの」

ワカバ「早死にますよ、それ」

ルミ「うん」

フミ「気を利かせてしょっぱいスープとか作る」

ワカバ「それ完全に殺そうとしてますよ」

ルミ「高血圧で死ぬね、世の奥様方がよく言うセリフだね」

フミ「知ってたかw」

ワカバ「……今回はエリー様、エリザヴェータさんを大解剖です!」

ルミ「フミさんの計画的犯行を止めるべきか否か……」



【4】 エリザヴェータ氏を大解剖！（前書き）

【女神様の落し人】からフミ。

【ギルド『ハレルヤ』の経理係】からワカバ。

【後宮近衛隊長の小間使い】からルミ。

以上三名が参戦しております。

未登場人物の氏名が出ますのでネタバレがイヤー！って方はご注意を。

#### 【4】 エリザヴェータ氏を大解剖！

フ ミ「ということで主役の女子会トークショー + α、話順は連載開始順からです。今度こそαを！」

ワカバ「第四回のトークテーマは『エリザヴェータ氏を大解剖』です」

ル ミ「私の素敵なご主人様です！」

フ ミ「萌えるね、ご主人様ってセリフ」

ワカバ「イエッサー。後宮近衛隊長って何してるんですか？」

ル ミ「王様の妻達に近づく男共の排除です」

フ ミ「すつきり簡潔にありがとう」

ワカバ「近衛隊って全員女性なんですか？」

ル ミ「イヤ、男性の方が圧倒的に多いらしい。んで、男性は外側だけ守る」

フ ミ「妻達とお茶会のシーンがあっただけど日常茶飯事？」

ワカバ「むしろエリー様も奥様ポジでしたよね」

ルミ「そう言う意味もあつて任命してるからね。お茶会はいつもあんな感じでエリー様も参加してるらしいですよ」

フミ「で、腐女子人口高めてるわけか」

ワカバ「つてことでエリー様の情報その1、腐女子」

ルミ「私が感染源ですり いやあついぼろつとヴァレリー様とニコライ陛下萌えるとか言っちゃった所為でハッハッハ！」

フミ「その2、強い」

ワカバ「騎士ですしね」

ルミ「強いし、美人だし、巨乳だし。なんて素敵」

フミ「そもそも侯爵家のご令嬢が何故騎士に？」

ワカバ「シリーズ中一番の謎かもしれない」

ルミ「作中で明らかになるんじゃないでしょうか？」

フミ「楽しみに待ってるわ」

ワカバ「良い子にお座りして待ってます」

ルミ「うむ。次はその3、溢れる才能」

フ ミ「文才ですね、作者に爪の垢煎じて飲ませてやって欲しい」

ワカバ「作者は変態なので爪ごといきますよ」

ル ミ「まあそんなわけでBL小噺作家が副業です。何時寝てるのか心配」

フ ミ「副業作家って何処かの王妃様もいたなあ……」

ワカバ「別の作者のキャラ出し駄目ですw」

ル ミ「まあ私は妄想付き合ってもらえるだけでいいんですけどねえ……」

フ ミ「不穏な動きがあるようですね」

ワカバ「今更な気がしますけどね」

ル ミ「うん……」

フ ミ「生きてりゃなんかしら予測不可能なことが起きるよ」

ワカバ「……既に予測不可能なことが10年前に起こってますがw」

ル ミ「何で異世界来たのかなあ。エリー様とイチヤイチャするためじゃないのかな？」

フ ミ「エリー様見てて飽きないね。むしろエリー様が逆ハーブレイカーな件について」

ワカバ「宰相補佐と国王陛下を袖になんてw」

ルミ「乙女から反感買つてると思いきや、あの格好（騎士）だからね。貴婦人方の人気も高いです。まさしくオスカル様」

フミ「なんて人なの……！っつかこの3人よりヒロイン向きじゃないか？」

ワカバ「ああ……言えますねw」

ルミ「本人はヒーローになりたいらしいですがね。男になりたいのかもその辺はおいおい」

フミ「エリザヴェータさん、男だったらなんだろう。ニコライとかロシア人っぽいよね。なんとかビッチさんしか思いつかないw」

ワカバ「ウサビッチさん……」

ルミ「ユザドは、くビッチはミドルネームみたいなもので、名前、その人のお父さんの名前+ビッチ、名字ってなる。女の人だと+ヴナ」

フミ「じゃあフルネームを聞くとお父さんの名前が判るってことか……」

ワカバ「へえく勉強になるなあ」

ルミ「うんうん……エリー様が男だったら……ボリス・ボリソビツチさんかなあ。代々お父さんと同じ名前ってのが多いから」

フ ミ「親子代々ボリス・ボリソビッチ・ジュラスフキーさんってこと？」

ワカバ「代々ボリス君……」

ル ミ「名前のバリエーション少ないのよ、ココ、女性だと名字も変わるのよ。エリー様の正式名、エリザヴェータ・ボリソヴナ・ジュラスフカヤ様。覚えられんっ！」

フ ミ「うわ、めんどくさ！」

ワカバ「て、帝国が日本もどき氏名でよかった……」

ル ミ「そんな感じで10年経ったわけよ。老成もするって。今更恋愛とか無いわ」

フ ミ「アハハ……まあエリー様には逆らえないんでしょう？」

ワカバ「ご主人様ですもんね」

ル ミ「うん、逆らわないよ。死ねと言われたら死ぬ覚悟よ」

フ ミ「あ、そこまでなんだ……」

ワカバ「結構いろいろあったようですね」

ル ミ「エリー様の言うことだけ聞いて生きてるから」

フ ミ「そっか……（ワカバちゃん暗い雰囲気なんとかしてー！）」

ワカバ「えーとエリー様って好きな食べ物ありますか？（なんかテレパスきたぁ！）」

ルミ「ん？ コレっていうのは。甘いモノと肉類は好きよ」

フミ「そっか。肉はいいよね、肉は」

ワカバ「私はお寿司食べたいです、ってか魚食べたい」

ルミ「そういわれると寿司食べなくなってきた」

フミ「う、私も……」

ワカバ「気を取り直して……次回は『神様トーク』です！」

ルミ「出ると思ったのにエリー様出てこなかった」

## 【5】 神様を大解剖！（前書き）

【女神様の落し人】からフミとペクテーヌ。

【ギルド『ハレルヤ』の経理係】からワカバ。

【後宮近衛隊長の小間使い】からルミ。

以上三名が参戦しております。

未登場人物の氏名が出ますのでネタバレがイヤー！って方はご注意を。

## 【5】 神様を大解剖！

フミ「ということで主役の女子会トークショー + α、話順は連載開始順からです。今度こそαを！」

ワカバ「第五回のトークテーマは『神様を大解剖』です」

ルミ「神様に興味なんて無い」

フミ「私を召喚したのは愛の女神ペクテーヌ様、イシュ君によると銀髪の妖艶系美女らしい」

ワカバ「帝国の国教は戦女神チヨジエを崇めておりますです、コッチも大層な美人らしいです」

ルミ「ユザドは聖教が国教です。作中では出てこないけど最高神である聖神ウエン様を崇めてるのさ」

フミ「神様の制度というか、なんかギリシャ神話っぽいよね」

ワカバ「最高神がゼウスの立ち位置ですね」

ルミ「そうそう、そんな感じ。八百万やおみんの神々がいるから好きな神様信じてればいいよ的な」

フ ミ「ヤオイの神様募集中」

ワカバ「募集してどうされるのでしょうか？」

ル ミ「精一杯崇めます」

ペクテーヌ「ということで神様登場じゃぞ。ヤオイではないが、愛の女神ペクテーヌという」

ワカバ「おお！ ザ・美女！」

ル ミ「なるほど、信仰する気になった！」

フ ミ「本編に出てきてくださいよ。はじめまして！」

ペクテーヌ「おお、フミ、はじめまして、じゃな。」

ル ミ「ウーン、ホントに妖艶系美女。帰ったら自慢しよ」

フ ミ「5話目にしてようやくαな存在が出ましたね……しかも神様」

ワカバ「カイゼお義兄様あたりかと思ったんですけどいきなり大物ですね」

ペクテーヌ「……ワカバか……すまん、チヨジエのバカに召喚されてしまった」

フ ミ「ワカバちゃん戦女神に召喚されたんだ！」

ワカバ「え……いきなりですな、誰と戦えばよいのでしょうか？」

ルミ「私は誰に……」

ペクテーヌ「戦わんでもよい、ただ死んで行くのを哀れに思っただけじゃ。後チヨジエは男じゃ。ルミはわらわの夫が召喚したようじや。本編で明らかになるといいのう」

ワカバ「戦わなくていいんですね……ってか戦女神じゃないんですか？」

ルミ「女神と思われてる男神……？ 萌えた！ ってペクテーヌ様の夫って？」

フミ「ペクテーヌ様結婚してらっしゃるんですね？」

ペクテーヌ「わらわの夫は死神じゃ。ルミが召喚された理由についてじゃが、わらわも詳しくは知らぬ」

ルミ「死神……」

フミ「死神……イケメンですか？」

ワカバ「イケメンって……」

ペクテーヌ「イケメンじゃ！」

フミ「よし、じゃあ仕方ないな」

ワカバ「イケメンになら何されてもいいって思ってますか？」

ル ミ「イケメンならいいか……死神×戦神とかどうでしょうか？」

ペクテーヌ「……そっちに持っていくのか……ありじゃな！」

ワカバ「ありなの！？」

ル ミ「ありっすか！？」

フ ミ「いや、戦神つてもしかしてマツチヨ系じゃ！？」

ペクテーヌ「いや、チヨジエは男じゃが、見た目清楚系美女じゃから、ありじゃ」

ル ミ「何ですかその美味しい設定！ もっと詳しく！！！」

フ ミ「ペクテーヌ様！ 旦那の死神様の容姿も教えてくださいよ！」

ワカバ「わー盛り上がってキター……」

ペクテーヌ「そうじゃのう、死神の容姿は基本的に無表情でな、黒髪ロングストレートのビジュアル系という感じかのう」

フ ミ「……ペクテーヌ様日本語お詳しいですね」

ワカバ「ですね……ビジュアル系……」

ル ミ「キヤー！ それで戦神の正確な容姿は？」

ペクテーヌ「うむ、喜怒哀楽は激しいが金髪ストレートロングの清楚系じゃ。見てくれは虫も殺せんような感じぞ」

ワカバ「それで戦神様と死神様は仲良いんですか？」

ルミ「どっちでも美味しいです、ハイ」

フミ「仲悪いに一票！」

ペクテーヌ「良くは無いのう」

ルミ「萌え尽きそう！」

フミ「何故仲が悪いんですか？」

ワカバ「わかった、地位争いしたとか。死神のほうに地位が高いとか」

ペクテーヌ「ん、わらわが主役の三角関係だからじゃ」

フミ「つまり戦神がペクテーヌ様のこと好きなんですか……」

ワカバ「ほう……」

ルミ「愛の女神を取り合ってるわけですか……で、いがみ合ううちに愛を育む……おっとYO・DA・RE！」

ペクテーヌ「そうなたら全力でチョジエを消す」

ワカバ「怖っ！」

ル ミ「愛の神様じゃないの?!」

フ ミ「結構自分勝手?」

ペクテーヌ「冗談じゃ。まあそうならなっただで潔く身を引くぞ。ソレが良い女という奴じゃ」

ル ミ「いや、全力でって言ってたときのほうが格好良かったですよ?」

フ ミ「うん、爽やかに黒かった」

ワカバ「こ、この辺で……次回は『未定』です!」

ペクテーヌ「爽やかに黒い……って褒められてるのかえ?」

**【5】 神様を大解剖！（後書き）**

次回からは未定。  
思いついたことを書きます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4814t/>

---

主人公達のトーク×トーク

2011年6月7日00時27分発行